

2024年度 第1回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2024年7月24日（水）14:30～17:30

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館701室+Web：Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形*（物質・材料研究機構）、田中*（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川*（日本水道協会）、荒井*（日本製鉄）、沖*（建築研究所）、
熊井*（日本検査キューエイ）、栗原（日本伸銅協会）、近藤*（日産自動車）、
酒井*（神戸製鋼所）、鈴木（日本鋼構造協会）、千葉（関西学院大学）、
辻村（日本金属継手協会）、中澤（JFEスチール）、蓮井（日鉄SGワイヤ）、
林*（元理化学研究所）、藤井*（日本試験機工業会）、藤田（北海道大学）、
松本*（日本海事協会）、森山*（日本アルミニウム協会）、八木*（大同特殊鋼）、
山口（九州工業大学）、山田*（東京大学）

（委員長・副委員長・委員計24名、*Web参加）

欠 席：金岡（住友電工ハードメタル）、桑原（東京農工大学）、塩田（IHI）、
種物谷（高圧ガス保安協会）、堤（日本規格協会）、富山（土木研究所）、

幹 事：松本（鉄鋼連盟）

関係者：須恵*（経済産業省）、吉田*（国土交通省）

（関係者計2名、*Web参加）

事務局：越川・寺澤・井田・齊藤・玉田・田谷・山本（鉄鋼連盟）

（事務局計7名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告事項

資料 1-1：2024年度 第1回鋼材規格三者委員会名簿

資料 1-2：2023年度 第3回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2023年度事業報告及び2024年度事業計画

2) JIS規格審議

<改正>

資料 2：JIS G 3502 ピアノ線材

資料 3：JIS G 3504 橋りょう（梁）用線材

資料 4：JIS G 3192 熱間圧延形鋼の形状、寸法、質量及びその許容差

資料 5：JIS G 3194 熱間圧延平鋼の形状、寸法、質量及びその許容差

資料 6：JIS G 3118 中・常温圧力容器用炭素鋼鋼板

資料 7：JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯

資料 8：JIS A 5525 鋼管ぐい

資料 9：JIS A 5530 鋼管矢板

資料 10 : JIS G 3474 鉄塔用高張力鋼管

資料 11 : JIS G 3475 建築構造用炭素鋼鋼管

資料 12 : JIS Z 2251-1 ヌープ硬さ試験－第 1 部 : 試験方法

< 制定 >

資料 13 : JIS G 3195 線材の形状, 寸法, 質量及びその許容差

資料 14 : JIS G 1214-1 鉄及び鋼－りん定量方法－第 1 部 : モリブドリン酸青吸光光度法

資料 15 : JIS G 1214-2 鉄及び鋼－りん定量方法－第 2 部 : モリブドリン酸抽出分離吸光光度法

資料 16 : JIS G 1218-1 鉄及び鋼－モリブデン定量方法－第 1 部 : ベンゾイン- α -オキシム

沈殿分離酸化モリブデン (VI) 重量法

資料 17 : JIS G 1218-2 鉄及び鋼－モリブデン定量方法－第 2 部 : チオシアン酸塩吸光光度法

< 廃止 >

資料 18 : JIS G 1214 鉄及び鋼－りん定量方法

資料 19 : JIS G 1218 鉄及び鋼－モリブデン定量方法

5. 議事内容及び結果

委員の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1 幹事から、委員会名簿及び 2023 年度第 3 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。これらの議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2 事務局から、2023 年度事業報告及び 2024 年度事業計画が報告された。ISO 規格化における中国の動向に関する質疑応答があった。
- 5.3 JIS 規格審議案件の改正 11 件、制定 5 件及び廃止 2 件について、事務局から内容が説明され、以下の質疑応答があった。
 - 1) 藤原副委員長より、資料 2 (JIS G 3502) 及び資料 3 (JIS G 3504) に関し、JIS G 0202 [鉄鋼用語 (試験)] 及び JIS Z 2300 (非破壊試験用語) では、磁粉探傷試験を磁気探傷試験に用語を見直しているとのコメントがあった。磁気探傷試験の内、磁粉による探傷試験であることを明確にしておくため、今回改正では、磁気探傷試験 (磁粉探傷試験) と併記することが事務局より提案され、承認された。
 - 2) 田中副委員長より、資料 8 (JIS A 5525) ~ 資料 11 (JIS G 3475) の単位質量の計算式に用いる単位の変換係数について、2023 年度第 2 回鋼材規格三者委員会でのコメント対応 (解説にて内容説明) の今回実施について確認があった。担当主査より、鋼管 JIS で横展開中であり、今回も解説に記載することが説明され、了解された。
 - 3) 榎委員長より、資料 10 (JIS G 3474) について、附属書 A の計算式は、Nb と V の分析値を個別に含むが、化学成分の規定 (表 2) が Nb+V となっていることについて質問があった。附属書 A を適用する場合は、数式に規定された各元素を分析して報告する (箇条 16) ことが事務局より説明され、了解された。
 - 4) 榎委員長より、資料 12 (JIS Z 2251-1) の附属書 C における、計量トレーサビリティとトレーサビリティの使い分けについて質問があり、別途説明するとした。[会議終了後、担当主査より榎委員長に対し、対応国際規格 (ISO 4545-1) では“計量トレーサビリティ”と“トレーサビリティ”とを同じ意味で使っていると解釈されるため、次回 ISO 規格改訂

時に“計量トレーサビリティ”に統一する提案を検討することが説明され、了解された。]

- 5) 田中副委員長より、資料 13 (JIS G 3195) の規格番号について、対象製品が線材のため、3500 番台とすべきではないかとのコメントがあった。形状、寸法、質量及びその許容差に関する共通規格である JIS G 3192 (資料 4) ~ JIS G 3194 (資料 5) の並びの続きで、これら既存共通規格が複数の品種を含むこと、この規格を JIS 4000 番台の特殊鋼も引用することが、規格番号選定理由として事務局から説明され、原案のまま承認された。

上記の他、改正・制定 JIS 案及び経過報告書は、規格ごとのコメントテンプレートに記載に従って、修正することとし、改正 11 件、制定 5 件及び廃止 2 件は、いずれも承認された。

- 5.4** 田中副委員長から、2023 年度第 2 回鋼材規格三者委員会の議事録に基づき、機械的性質の記載において、N/mm²から MPa への見直しを検討していくことについて、現在の状況確認があった。事務局より、現在 F01.00 基本規格分科会にて審議中であり、次回の鋼材規格三者委員会で報告予定であることが説明された。

- 5.5** 幹事から、次のとおりに報告され、内容が確認された。

- 2024 年度第 2 回鋼材規格三者委員会は、2024 年 12 月 20 日 (金) 午後に、ハイブリッド会議として開催する。会議終了後の懇親会も計画予定である。

(会議席上では別途調整としておりましたが、上記にて確定とします。)

- 2024 年 7 月末で、森山委員が退任され、鈴木様に委員交代される予定である。

以上